

【研究主題】

I C Tを活用し、共に学び共に育つ授業を創造する
～情報活用能力育成を目指した主体的・対話的で深い学びの実践～

I . 研究の主旨

1. 研究主題設定の理由

新学習指導要領では、言語能力、問題解決能力と並んで、情報活用能力を学習の基盤となる資質・能力として育成することが求められている。大阪市教育振興基本計画においても、I C T活用教育の推進、主体的・対話的で深い学びのための授業改善が重点課題として挙げられている。本校教職員は、デジタル教科書、NHK for school の番組やデジタルコンテンツ等、児童の実態に合わせて日常的にI C Tを効果的に取り入れた授業を実践してきた。昨年度は、児童の「読む力」の向上のため、I C Tを活用するという研究を進め、児童の主体的な学びが継続する課題設定を工夫し、児童が自ら進んでI C Tを活用するという実践を行った。

本年度は、研究テーマを「I C Tを活用し、共に学び共に育つ授業を創造する～情報活用能力育成を目指した主体的で対話的な深い学びの実践～」とし、年間を通してI C Tを児童が主体的に活用する授業改善を行った。また、どの教科でも「習得・活用・探求」の学習の流れを確立し、児童が主体的に情報を収集、取捨選択、分類整理し、発表する活動の中で、協働してプレゼンテーション資料を作成したり、互いの発表を聞きあったりする過程で対話的な学習につないでいけるようにした。さらに、自分の考えや意見を他者と比較することで、自分の考えや意見を確かなものにし、児童の深い学びを実現するような授業実践をおこなう。

2. 研究の内容

- (1) 情報活用能力育成の視点にたった、主体的で対話的な深い学びを実現する授業改善と、指導力・授業力の向上

○本校オリジナルのI C T活用年間計画をもとに、様々な教科・単元で情報活用能力育成の視点にたった授業を行い、情報を「あつめる」「まとめる」「つくる」「つたえる」の4つのステップを経て、授業に関連する情報をプレゼンテーションの形にまとめ、発表・発信する活動を行う。

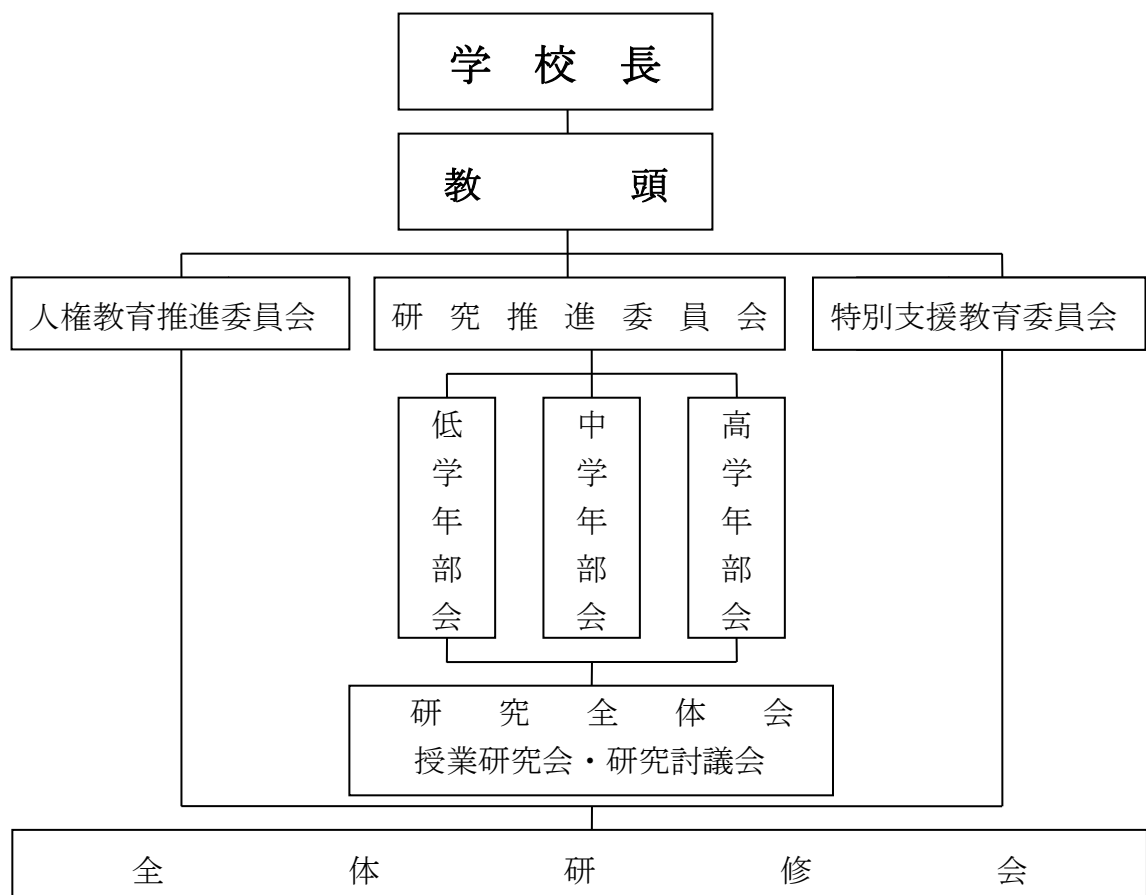
(2) 情報活用能力の3観点(情報活用の実践力・情報の科学的な理解・情報社会に参画する態度)に関連した、教科横断的なICT活用年間計画の作成

○昨年度末作成したICT活用年間計画をもとに実践を行い、教科間や学校行事との関連をさぐる。授業参観でのプレゼンテーション発表や、社会見学後の活動など、来年度に向けICT年間活用計画をさらに充実させていく。

○教科横断的な年間計画の作成や、情報モラル、プログラミング教育を盛り込んだ年間指導計画を全学年で作成する。

Ⅱ．研究の進め方

1．研究組織



2. 研究活動計画

月	研究活動
4	研究テーマ・研究の柱・実践内容・見込まれる成果等の検討 研究推進全体研修会 児童への「情報活用能力チェックリスト」実施・分析
5	研究授業年間計画作成 (公開授業に向けた授業者、指導案のひな型、研修日程・内容等)
6	情報教育校内研修会
7	
8	研究大会等へ参加(参加後、校内研修にて周知、研究内容に活用) I C T活用合同研修会
9	授業研究会 特別支援 算数「ひきざん」 授業研究会 6年算数「拡大図と縮図」
10	授業研究会 3年社会「安全なくらしとまちづくり」
11	授業研究会 5年社会「これからの工業生産」 放送教育・視聴覚教育全国大会参加 (参加後、校内研修にて周知、研究内容に活用) 授業研究協議会 (研究成果・課題について協議し改善方法を検討 園田学園女子大学 堀田博史先生招聘)
12	授業研究会 2年音楽「おまつりの音楽」
1	児童への「情報活用能力チェックリスト」実施・分析
2	研究発表会(参加者へアンケート) 公開授業 4年 国語「報告します、みんなの生活」 1年算数「みちすじをかんがえよう」 研究発表を行い、本年度の成果を発表 指導講評・講演会(園田学園女子大学 堀田博史先生招聘)
3	教員へのアンケート実施 研究のまとめ 来年度へむけて、本年度の成果と課題を分析

Ⅲ．研究のまとめ

「ＩＣＴを活用し、共に学び共に育つ授業を創造する～情報活用能力育成を目指した主体的で対話的な深い学びの実践～」という研究主題のもと、教科等横断的に単元を設定し、児童が主体的に活動する中で、協働してプレゼンテーション資料を作成して交流し、話し合ったことを基にして、自分の考えを深めるという力をつけるために、全学年で研究を進め、次のような成果をあげることができた。

1．研究の成果

- 児童が日常的にＩＣＴ機器を活用し、課題に対して主体的に取り組むことで、児童の情報活用能力が向上した。
- プレゼンテーション資料作成のためのマニュアルの整備や、ＩＣＴ年間活用計画表の作成を通して、児童のプレゼンテーション能力が向上し、NHK for School の番組利用から、発表時に気を付けることを意識し、相互チェックすることでコミュニケーション能力の向上にもつながった。
- ＩＣＴ年間活用計画を作成したことで、来年度、人事異動等があっても本年度と同等以上の指導が可能になる。
- プログラミング教育用教材を整備し、研修の頻度を増やすことで、教職員の情報教育への指導力向上をはかることができた。来年度より本格的に始まるプログラミング教育について、不安を払拭することができた。
- 外付けキーボードの購入や、キーボードレッスン用アプリの充実などで、児童のキーボード入力スキルが向上し、今後の情報教育がますます発展的に進めることができるようになると思う。

2．今後の課題

- 情報教育への教職員の意識や授業力向上はみられたが、さらなる充実を図る。
- 児童の実態や本校の取り組みにより即した形での情報活用能力のチェックを行う。
- プログラミング教育へのさらなる環境整備・研修等を進める。
- GIGAスクール構想を見据えた、遠隔授業やプログラミング教育に挑戦する。